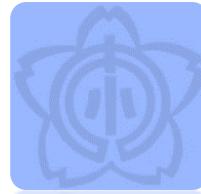




すぎなっ子



令和 4年度6号
9月26日(月) 発行
文責 中野島小学校長

真夏のセミの声がコオロギの声に変わり、秋の訪れを感じる季節となりました。今年度も約半分が過ぎ、子どもたちは、学校生活を通じて、様々なことを学び「できること」、「分かること」、「聞くこと」、「伝えること」など、自立に向け、一步一步成長しています。また、クラスや異学年との関わりの中で、自分や友達のいいところを確認し、お互いのよさを認め協働できるなど、心の成長を感じます。

今月の言葉「生き方」

8月24日に京セラの稲森和夫さんが亡くなりました。京セラを創業し、KDDI 設立や JAL の再建に尽力され、日本経済界の発展に寄与されました。代表的な著書「生き方」には、失敗を繰り返しながらも、世界一の会社にするという高い志と人間としての正しさを求め続ける愚直で誠実な生き方が綴られています。

時代が変われど、人間のめざす生き方は、ど真剣に毎日を生きて、生まれた時よりも亡くなる時に自分の心境を高く美しいものへと成長させることが、人間の生きる目的であると語っていました。

また、人間の成長について、人の役に立てるように才能(できる・わかる力・伝えるなど)を高めながら、徳力(人間としての正しさ)を身につけること。成長の過程において、一番大切なことは、「自分が・自分が・自分が」という自己中心的な考えから「利他」(感謝し、まわりの人を幸せにする)の考え方を身につけ、大局的な視点を持ちながら、勉学や仕事に励むことの重要性を語っていました。

改めて本校の校訓である「誠実・力行」や学校経営の方針「『ありがとう』がこだまする学校」の大切さを感じました。誠実に一生懸命努力する習慣を身につけ、生涯を通じて続けることが、多くの人の役に立てる基礎であるように思います。子どもを育てるにつれ、自己の成長を振り返りながら、子どもたちと向き合い、一步一步成長できるようにともに頑張っていきましょう。

阿南市陸上記録会 9月3日(土)



阿南 JA アグリ陸上競技場

秋空の下、阿南市陸上記録会に20名あまりの児童が参加しました。

ほとんどの人が初めての参加で、いつもと違う場所で、緊張もあったと思いますが、夏休み中の練習の成果が十分に発揮されたと思います。おかげでたくさんの賞状をいただくことができました。



着衣水泳 6年生 9月5日(月)



水泳もいよいよ大詰めとなり、高学年は、毎年恒例の着衣水泳をしました。思ったより衣類が水を含んで動きにくいことが分かりました。もしもの時、慌てず、仰向けに浮かぶことが大切ですね。

◇10月の行事予定◇

10月 6日(木) 前期終業式

10月 14日(金) バス遠足(1~5年生)

10月 7日(金) 市陸上記録会 秋休み(~10日)

10月 20日(木)~21(金) 修学旅行6年生

10月 11日(火) 後期始業式

10月 31日(月) クラブ活動

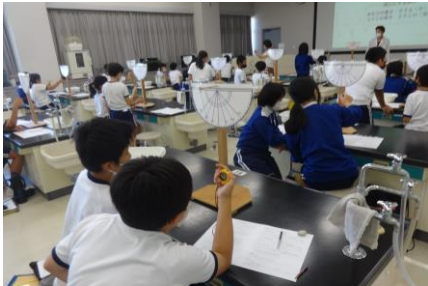
木工教室 3年生 9月15日(木)



フレッセから二人の講師さんが来校し、県産の杉板を使って、ティッシュケースを作りました。はじめはどうなるかと思いましたが、丁寧なご指導と友達の協力で、素敵な作品を完成することができました。

✂ 墨付け ⇒ 組み立て ⇒ 仕上げの手順でがんばりました ✂

科学センター 5年生 9月16日(金)



那賀川科学センターで、天気の変化や振り子の勉強をしてきました。

天気の勉強では、ペットボトルの中で、雲をつくる実験をしました。



地震津波避難訓練 全校児童 9月21日(水)



明星保育所と合同で、地震避難訓練をしました。みんな真剣に、素早く避難することができました。また、6年生は保育所の子どもたちを優しくサポートすることができました。

「第一の壁」

若いときは無我夢中で、自分が何者であるかを探求し、もがいている時期でもあります。思春期になると、まわりの人との比較や他者からの言葉、目線に意識が向き、劣等感(他より劣る惨めさや恐怖)や自己顕示欲(自分が自分が・・・承認欲求)に苦しむことが多いです。ちょっとした失敗やわずかに成績が下がることで、極端に落ち込み、逆に、少し上手いくと、うぬぼれてしまうなど、心境が上下に大きくぶれることで、苦しみの種を作ることが多い時期でもあります。

思春期から25才頃までの壁を乗り越え、自分らしく成長するには、他者との競争や比較ではなく、自分を見つめ、自分の目標に向けて淡々と力を注ぐことが大切となります。そして、言い訳をなくして、時間(細切れ時間の活用)を大切に使い、力を蓄積することが第一の壁を突破する秘訣です。「わたしはできる」、「昨日より今日、今日より明日、一歩前進するぞ」という「心がけ」が明るい未来を開きます。子どもたちに心がけを伝えながら、温かく見守っていきましょう。